

ダイクレ興産

支承リバイバルシステム

「NET-1S」に登録

ダイクレ興産㈱（呉市築地町1-24、山本浩社長）が開発した『支承リバイバルシステム』が3月26日付で国交省の新技術活用システム・NET-1Sに登録された。登録番号はCG-130026-A。これまで施工が極めて困難だった橋梁狭隘部（支承）へのブラスト処理による素地調整が可能となるもので、今後ますます増える維持補修工事への貢献が期待される。

この技術は、グレーチングや鉄構造物等の金属表面処理を本業とする同社が、造船関連の狭隘

特殊ノズルで狭隘部 ブラスト処理可能に

部用特殊ノズル（長さ約15cm、直径約3cm）が最

によるコーティングの9日の鹿児島会場を皮切

大のポイントで、これに

ト削減が見込める。

る予定だ。

より、支承範囲に15cmほどのスペースがあれば、従来では届かなかった広範囲に高い除錆度の下地処理を行うことが可能となり、その後、常温亜鉛めっきコーティングを施工することで、工期短縮ができ、かつ溶融亜鉛めっき工法と同等の耐久防食性能を確保することが

すでに中国地方整備局の発注工事などで試験施工がなされており、今後は補修業者等で組織する

問い合わせ等は同社警固屋工場（呉市警固屋9-19-6、電話0823-28-3545）まで。

現場での作業は、①現地調査や足場仮設、清掃などの前工程②潤滑性防錆材の注入③ブラスト処理（素地調整）④金属溶射⑤常温亜鉛めっき塗料

現場での素地調整

なお、同技術は、5月

使用する特殊ノズル

